

## わい性台木「ヒリュウ」による温州みかん「白川」の樹勢安定

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部  
担当者：北園邦弥

### 研究のねらい

高糖系温州みかん「白川」は、果実品質は良好であるが、通常の栽培管理では樹勢が強く大木化しやすい。このため、わい性台である「ヒリュウ」を利用して樹勢を抑え、樹形の小型化を図り生産性を向上させる。

### 研究の成果

- 1 ヒリュウ台を利用することにより、カラタチ台に比べて春枝長は短くなり、樹が小型になる。葉面積や葉の厚さはほとんど変わらない。
- 2 1樹当たりの収量はカラタチ台に比べると少ないが、単位樹冠容積当たりの収量は多い。
- 3 樹が小型になることから作業能率が向上する。
- 4 糖度、可溶性固形物はやや高いが、クエン酸含量は変わらない。
- 5 着色がやや早く、果皮色もやや良好になる。

以上のことから、ヒリュウ台を利用することで「白川」の新梢伸長が抑制されて樹が小型になるとともに、果実品質が向上する。

### 普及上の留意点

- 1 通常の栽培では樹勢が強すぎるようなやや土層の深い園地に適用できる。
- 2 土層が浅い園地では樹勢が衰弱する恐れがある。
- 3 強風により倒伏しやすいため、支柱等が必要である。

表1 台木の違いが白川の樹の生育、収量に及ぼす影響

樹令	台木	幹 樹の大きさ			春枝長	節間長	収量	1 果 m <sup>3</sup> 当		100果当り
		断面面積	樹高	樹冠容積				平均重	り収量	
		cm <sup>2</sup>	m	m <sup>3</sup>	cm	cm	kg	g	kg	分
7年生	ヒリュウ	-	1.3	2.3	11.9	1.8	16.0	148	6.9	-
	カラタチ	-	1.4	3.7	19.0	2.0	20.5	153	5.5	-
8年生	ヒリュウ	23.3	1.3	2.9	10.4	1.7	22.8	120	8.6	-
	カラタチ	33.8	1.5	3.8	16.8	2.0	31.1	111	7.9	-
9年生	ヒリュウ	26.6	1.4	3.3	10.9	1.8	18.2	181	5.5	6.5
	カラタチ	39.6	1.5	4.7	14.1	2.0	21.1	173	4.5	7.0
10年生	ヒリュウ	28.7	1.3	3.3	12.8	1.9	28.1	113	9.5	6.5
	カラタチ	45.1	1.6	5.9	18.0	2.2	46.0	114	8.3	7.4

表2 台木の違いが白川の果実品質に及ぼす影響

樹令	台木	1 果 平均重	果 肉 歩 合	糖 度	可溶性 固形物	クエン酸	甘味比	果皮色 (a値)
7年生	ヒリュウ	131.5	72.6	11.7	13.97	0.98	14.73	21.72
	カラタチ	142.4	73.0	10.5	11.80	0.94	12.76	16.63
8年生	ヒリュウ	128.7	74.0	12.2	13.79	1.08	12.77	25.43
	カラタチ	128.7	73.1	11.7	12.82	1.03	12.43	24.29
9年生	ヒリュウ	169.6	75.3	10.8	12.22	0.94	13.01	19.88
	カラタチ	171.6	75.8	10.6	12.01	0.98	12.41	19.07
10年生	ヒリュウ	122.9	75.0	11.5	12.74	0.94	13.60	21.31
	カラタチ	123.0	74.6	11.3	12.32	0.90	13.70	21.90

屈折計示度